

第2回『びほろ』みらいまちづくり会議

(1) 会議の概要

開催日時：2025 年 10 月 23 日（木）18 時 30 分～20 時 00 分

開催場所：しゃきっとプラザ 集団健診ホール

プログラム

- (1) 開会
- (2) 情報提供（美幌町の人口推計、住民アンケート調査の速報）
- (3) 意見交換
- (4) グループごとの発表とまとめ

(2) 意見の概要

この 10 年間の変化として人口減少に関連した意見が多く出された。人口減少に伴う商店街のにぎわい消失、空き家・空き店舗の増加、医療機関および医師の減少、交通利便性の低下、イベントの減少などの意見が出された。

まちづくりの課題としても人口減少に関連することが多く、子育て支援の充実、若い世代の雇用創出、移住促進や U ターンの促進、地域コミュニティの仕組みづくり、観光の推進、まちのブランディング、コンパクトシティの推進、財政の懸念が出された。



(3) テーマごとの意見のまとめ

テーマ1：10年間で取り巻く社会変化についての主な意見

分類	主な内容	傾向・キーワード
人口減少 地域構造	人口減少、少子高齢化、 子どもの減少、1世帯人数減	人口減少、高齢化、若者流出（全グループから出されている）
商業 地域経済	商店街の衰退、飲食店減少、 空き店舗・空き家増加	中心部の空洞化、夜間のにぎわい減少、 空き家・空き店舗の増加
交通 インフラ	JR 無人化、バス路線減少、 移動手段の減少	交通利便性（足）の確保、空港アクセス の確保（複数部会から出されている）
教育・学校	美幌高校の生徒減少、部活動縮小	子どもの減少、進学・就職で町外流出
医療・福祉	病院減少、医師不足、診療科の限定	医療アクセスへの不安、 福祉職員の確保の必要性
社会環境・ 生活	物価高騰、ICT 普及、働き方変化	スマホの普及、テレワークの増加、個人 化など
地域コミ ュニティ	自治会減少、イベント減少、 人のつながり希薄化	交流の減少、担い手不足とマンネリ化、 自治会の固定化
外国人 住民	外国人の増加	外国人が増えたが地域に溶け込めていな い

テーマ2：美幌町のまちづくりの課題の主な意見

分野	主な課題	関連キーワード・意見
人口減少 定住	人口減少対応、若者定着、Uターン促進	若者の働く場、住宅支援、子育て環境の充実
雇用促進 産業振興	働く場の確保、賃金水準の向上 起業支援	地元就職、農業・一次産業の後継者の確保、若者の起業支援
子育て・ 教育	乳幼児～高校まで切れ目ない支援、教育の柔軟化	子育て支援、学習環境の充実、部活動支援、発達支援
医療・ 福祉	医師・介護人材不足、 高齢者支援充実	福祉のサービス格差 高齢化に対応したまち
交通・ インフラ	公共交通の維持、モビリティの活用、インフラの老朽化対応	「モービー」の活用、バス路線の確保 下水道老朽化への対応
商業・ 中心市街地	シャッター街対策、 施設の再生	空き店舗活用、コワーキングスペースの まちなかへの設置、KITENの連携
環境・ エネルギー	気候変動対応、再エネ活用推進、 ゴミ処理施設の活用	温暖化対策の推進、ごみの排熱利用 再生エネの導入
観光・ 交流	美幌峠以外の観光資源づくり、 滞在促進	まちなかの道の駅配置、観光ガイド育成、 宿泊施設の充実
地域コミュニティ	担い手不足、若者参加、助け合い	まちづくり会議の常設、助け合いの仕組みづくり、 ウェルビーイングの推進
行政・ 財政	行政の方針がわからない、 人口減少のなか財政が不安	投資する力の低下

(4) グループごとの意見

①総務部会

【テーマ1：10年間で変化した状況】

○人口減少

人口減少、人口流出、高校生の減少、子どもの減少、新生児の減少

1 世帯あたりの人数の減少、空き家が増加した

一方で外国人が増加した

○商店および商店街

まちなかに人がいない・少なくなった

商店街がシャッター街になった、趣味・行きつけのお店が閉店した、商店が減少した
商店街が弱体化している

飲食店が減少し予約しないと入れない状況になっている

○医療・インフラ

病院が減少した、病院の先生が減った、受診日が限定されるようになった

交通手段が減った、駅が無人化された

○社会環境

物価が高くなった、土地・木材が高くなっている

テレワーク環境が整ってきた



【テーマ2：美幌町のまちづくりの課題】

○人口減少に対応

人口減少・少子高齢化が課題、定住人口を増やす、子どもが増えるようにする

○医療・福祉

医療への不安がある、病院の維持、医師の不足に対応して医師の確保

福祉への支援

○商店街・施設

まちの中心街の空き店舗増加、シャッター商店街の対策、老朽施設の統廃合

○交通

バスの便が減少している、高齢者の移動手段（足）の確保、空港へのアクセスの向上

○高校

高校存続、美高生を増やす(それとも…)

○雇用

若者の働く場所の確保、働きたい場所（職種）を確保

○防災

災害対策は万全か？

○子育て

子育て支援(魅力的な)が必要

○コミュニティ

外国人が増えているが地域コミュニティに溶け込めているか？

コミュニティでの交流がない

○まちの魅力

まちなかに特色がない、峠以外の観光資源がない、峠以外の見たいものを創造する

町民参加型のイベントがない、イベントの魅力が乏しい

楽しめる場づくりが必要、若い人の遊びがない、遊び場を増やす

○その他

まちが暗い

②町民生活部会

【テーマ1：10年間で変化した状況】

○人口減少・高齢化

子どもが減り高齢者が増加

地域イベントが固定化され、新たなつながりが生まれにくい

○医療・福祉

病院やクリニックの減少

○土地利用

空き地・空き家の増加

○若者の雇用

若者の就職ミスマッチ、後継者不足、活気ある職場の減少

○商業環境

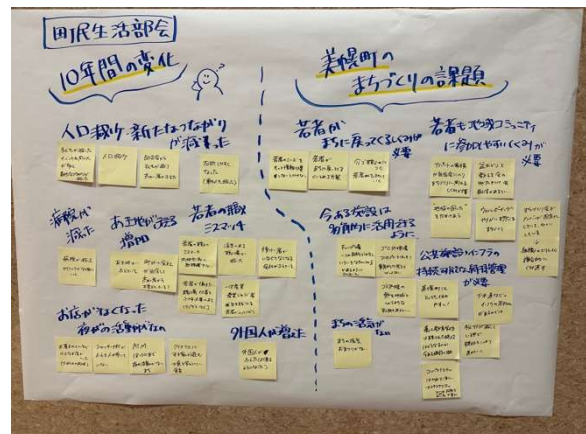
個人商店の減少、夜間営業の少なさ、シャッター街、

お菓子屋さんなど小さなお店が減少

まちの活気の喪失

○外国人住民

外国人の増加傾向



【テーマ2：美幌町のまちづくりの課題】

○若者回帰・定着

美幌町に戻ってくる仕組みづくり、若者のニーズ把握

介護職など地域職業への誘導

○コミュニティ参加

アパート居住者も含めた自治会参加促進

盆踊り・文化活動など伝統の継承

まちづくり会議メンバーが固定化、疲弊している

ウェルビーイング やりがいを感じるまちづくり

○まちの活気創出

祭りや交流イベントなど地域のにぎわいづくり

○施設の多目的活用

キャンプ場やごみ処理施設を多角的に利用

資源循環や地域熱利用の促進

○インフラ維持管理

老朽化施設への対応

義務教育学校統合後の跡地活用

○まちの構造

コンパクトシティではなくスクエアシティ
多様な居住形態を尊重したまち構造の議論

○財政運営

税収減の中でも持続可能な財政管理を。

③福祉部会

【テーマ1：10年間で変化した状況】

○人口減少・少子高齢化

人口減少、高齢化、高齢者が増加、子どもが減少、働き手が減少

○商店および商店街

商店が減った、商店の従業員がすごく減った、飲食店を筆頭に商店街の閉店している

人材不足のため閉店したお店があった、飲食店の営業時間が短くなった
昼も夜もまちを歩く人が減った

○社会変化

最低賃金が上がった、物価があがった

働き方が変化した

テクノロジーが進化した、ICTなどが各方面で普及した、スマホが普及した
気候やパンデミック的な予測のつかないことがあった

○医療・福祉

個人が病院の減少、医療や介護などのサービス負担の増加

複雑な困難さを抱えている相談が多くなった

○農業

農家が減ったが生産高は変わらない、農業などの後継者不足

○イベント

イベントが減少した

○サービス

子育て世帯への助成がアップした、災害への対策や取り組み強化された

消防・救急の体制が強化された

○外国人増

外国人が増加した

○美幌高校、生徒の減少・若者の減少

進学・就職で町を離れる若者が増加、美幌高校生が減少、北見へ通学の生徒は増加
町内の高校に通う学生が減少

○インフラ（建物・公園）

行政の建物だけが新しくなった、遊具、公園などの数や整備が減った
学校にもエアコンが入った、ゴミ処理の体制が強化された



○その他

自治会が減った

うるさい頭のきれいな人がいなくなった、皆は自分を隠す裏で人をはかる

営業関連企業の職員が倍になった、自衛隊の規模が縮小された

まちづくりの話題が増えた

【テーマ2：美幌町のまちづくりの課題】

○福祉(サービス・人材)

福祉サービス提供者(企業)への財政的支援(サービスが充実しているほか市町村に人口流出が増える)

要支援者に加えて支援者が流出してしまうことも考えられる

介護は、同じ保険料を払っても、同じサービスを受けられなくなる可能性が出てくる

人材の確保(医療・福祉・介護職・福祉サービス職)

高齢者福祉の充実

若い世代が減ってもやっていける 高齢者の多いまちづくり

○産業(雇用・起業・課題)

若者が起業するための支援、地元で働ける環境づくり、

賃金UP、雇用の確保

○子育て

子育て支援の充実

○町内活動

助け合いの仕組みとして機能させる

○家賃

住居の充実(API家賃率への配慮)

○交通

モーターの利用方法 もっと乗りやすく

○行政

誰のためのまちづくりの方針かわからない、時代に沿った自治体

○その他

新エネルギーの増加、町全体が暗い(照明・外灯不足)

観光推進、防災の強化 自助！共助

教育(郷土愛、学力向上)

④経済部会

【テーマ1：10年間で変化した状況】

- 人口減少と高齢化が進行
団体や組織の人数が減少、地域のつながりが希薄
- 商業・まちなか
商店街の衰退、飲食店・小売店の減少
- 地域施設・交通
美幌駅無人化、グランドホテル閉鎖、JA 会館などイベント会場の減少
「きてらす」開業により賑わいが一部回復
- 公共交通
女満別空港・美幌峠方面の公共交通が減少
- 物価・気候
物価高騰、気候変動・豪雨・台風・猛暑の頻発
- 外国人労働者
外国人雇用が増加
- デジタル化
電子決済の普及などデジタル化の進展
- ふるさと納税
数年で大幅増（689 万円→4.8 億円）。



【テーマ2：美幌町のまちづくりの課題】

- 人口減少対応
人口減少に適応したまちづくり
- 担い手不足
地域活動・産業分野双方で担い手不足
若年層への投資・定着支援
- 地域活性化
自治会の活性化、地域交流の場づくり
- まちなか再生
中心部の共有スペースの充実（KITEN、さらら等）。
- 観光振興
ガイド人材育成、美幌峠での滞在促進、まちなか「道の駅」構想
- 産業基盤強化
農業・畜産の強靱化、新技術導入、干ばつ対策など

○魅力・定住環境

学校・医療・交通の充実による「住み続けたいまち」づくり

○医療連携

近隣自治体と連携した専門医療体制の確立

○交通・高齢者支援

高齢者が利用しやすい交通インフラ整備

⑤建設部会

【テーマ1：10年間で変化した状況】

○人口減少・高齢化

少子高齢化、子どもの数が減少

町内で子どもの姿を見かけなくなった

人口は約20,600人から16,800人へと減少

○まちなみ・施設

役場庁舎や町民会館は新しくなった

大通のシャッター店舗が増加や商店の減少

その他の街並みや施設の老朽化が進行

かつてイベント会場だったグランドホテルが廃業

旧美幌中学が未利用のまま

空き家・空き地が増加

○交通環境

美幌～網走間などでバス路線が廃止、交通の利便性が低下

○気候変動

温暖化の進行により夏日が増加

サツマイモや落花生などの栽培が可能になった

一方で雪が減少

○教育・人材

美幌高校の生徒が減少

○地域構成

外国人住民の増加が見られる。



【テーマ2：美幌町のまちづくりの課題】

○人口減少対策・子育て

若者が働き、子育てしやすい環境づくりが必要

子育て世代の支援、応援

住宅支援や教育環境の充実

子育て世代への優遇策を強化

○一次産業振興

農業後継者の確保、農業人口増加を目指したい、雇用創出が重要

○企業・起業支援

地元企業の支援、町民が恩恵を実感できる制度設計が必要

○都市構造

高齢者も暮らしやすいように機能を中心部に集約する「コンパクトシティ化」

交通の充実

○スポーツ・交流

全国レベルの大会が開けるようなスポーツ総合施設の整備

○教育

教育施設の整備、教員補充による教育環境の向上

○ブランドづくり

美幌の水や農産物を活かしたブランドづくり

まちをターミナル化する

名物づくりや有機農業など、地域らしさの確立

⑥教育部会

【テーマ1：10年間で変化した状況】

○人口減少・人材不足

労働人口の減少、自衛隊員減少、外部委託の増加などで地域の自立性が低下

○医療・出産環境

町内で出産できる病院が減少、診療科の減少も懸念

○交通

JRの便数減少による移動の不便さ

○商店街の衰退・イベントの減少

イベントや行事の減少、参加者の減少
商店街の衰退、飲食店の減少

○社会変化

個人の意見を言いやすくなった
大きな組織から小さなコミュニティへの移行

○教育現場

不登校・ひきこもりの増加



【テーマ2：美幌町のまちづくりの課題】

○人口・雇用

若者の働く場確保、自衛隊強化など地域雇用の拡大

○子育て・教育支援

乳幼児から成人まで切れ目ない支援体制を構築
学童・送迎支援など生活支援の強化
学びの多様化
個性や発達に応じた柔軟な学習環境づくり
部活動への助成や指導者育成

○地域文化・活動

住民全体がまちづくりへ参加
ボランティアや文化活動の活性化（動物、ガイド）
まちづくりへの住民参加意識の醸成
まちのPR活動への参加
まちづくりの担い手確保

- インフラ・施設
 - 公共交通、街灯整備、空き家や公共施設の有効活用
 - コミュニティの場づくり
- 農業支援
 - 新規就農支援や地元農業の活性化
- 次世代技術
 - IT・DX・AI などへの理解不足を補う教育の必要
- 財政基盤
 - 町の財政力や投資余力への不安